

D-D 反応	D-D 核融合反応	重水素-重水素反応
--------	-----------	-----------

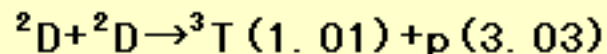
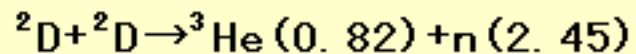
D-D 反応 でいーでいーはんのう

D-D reaction. 核融合は、軽い核同士の融合反応でエネルギーを取り出すもので何種類もあるが、実際に利用可能なものは5ケース程度で、特に現在世界で研究の対象としているのは、このD（重水素）-DとD-T（三重水素）核融合反応である。原材料としてのDは海水中に豊富に存在する。また反応生成物はヘリウム、T、中性子で、Tは再び燃料になる。中性子による構造材の放射化を管理する必要がある。重水素は放射性元素ではないため取り扱いが容易であるが、6億度以上の高温が必要である。第二世代の核融合炉と考えられている。

<登録年月>

2001年09月

D-D 核融合反応



D-D 反応 (第二世代)

注) ${}^2\text{D}$: 重水素、 ${}^3\text{T}$: 三重水素 (トリチウム)、 n : 中性子、 p : 陽子
() の数字は MeV 単位。

[出典] 狐崎 晶雄 : 解説 核融合、JAERI-M 90-150(1990), p. 9